

## Can Academic Gerontology Keep from becoming irrelevant?

アカデミックな老人学課程は、教育と無関係になることを防げるのか？

By Anabel Pelham

学位を与えられるアカデミックな老人学のプログラムは、アメリカ合衆国で新しいチャレンジの局面を強いられており、また、ヨーロッパにおいてもこうした局面はどんどん増えている。ほとんどの場合、こうしたチャレンジは構造的なもので、しかしながら、高齢者を扱う分野が意義のある方法でその学問を取り扱わなければ、ほどなくその学問——そして我々老人学者たちも——無関係の事柄と一蹴されてしまうであろう。

老人学のプログラム、学生たち、卒業生、コミュニティー、そして老人学そのものは、様々な形で不利益を被ることになるだろう。。なぜなら、老人学の学問プログラムは、国家的な組織に認定を受けていないからだ。老人学の協会の、高等教育のメリットプログラム（POM）における、承認スタンプを授与する自発的な検証プロセスは、よいスタートとなるだろう。しかし、POMは広く用いられていないし、大学の学部長や学長にも、単位認定と同等だとは認められていない。アカデミックの老人学プログラムは、ただでさえ逼迫する大学資金の予算配分の中で、お決まりのように予算のすれすれのところに行列するばかりだ。部分的には、それらが、単位認定の基準を満たし続けることができないからだ。これを満たさないと、生涯保証された教授陣、事務スタッフ、出版物、カリキュラム作成、専門教授の研究のための旅費交通費やその他の所費を賄うための予算基盤を得ることはできない。

### アカデミック分野の現実

多くの老人学プログラムは、比較的アカデミックな基準としてはまだ30年そこそこ、歴史が浅い。加えて、プログラムとしては小さく、数少ない学部教授の講師によって教えられており、学部運営されている。生涯保証の地位を得られている教授はまれで、プログラムも、制度的に重要な必須履修課程（たとえばGRNやGEROなど）とみなされている老人学のコースはほとんどなく、又、高齢学における総合科目で授業を履修した学生が、100%その分野だけで単位を受けられるプログラムはほとんどない。フルタイムの正規学生全員が入部するプログラムが、大学路線の主流だと覚えておくことは重要であり、多くの生徒数が履修するカリキュラムのプログラムにこそ、多くのドルが支払われるのだ。大学の予算においては、入学する正規学生の数がプログラムのターゲットなのだ。もしお金のないプログラムがカットされるのなら、その課程を履修する学生数こそが重要なのだ。

老人学のコースを提供することは、その他の学習科目として価値があり、総合学部において履修が歓迎され、役に立ち、学部そのものの学習に付加価値をつける。けれども、老人学のプログラムの長期の展望としては、必須科目として内容をもち、専門のコースとして履修しなければならないという認識を持たれるべきである。老人学の最近のよい傾向としては、その他の健康、人的サービス、行動・社会科学学習では、特講だとか、承認プログラムとして、老人学的内容を加え始めている。

しかしながら、その他の学習のカリキュラム内で副教科として老人学が教えられることは、効果としては他の分野の知識のお飾りでしかない。単一の、総合カリキュラムで教えられてこそ、老人学は、学問として複合的な、確固とした総合学問基盤となり、多くの知識体系が枝分かれするのだ。多くの高齢化を扱う専門家は、多くの分野の総合的な協力は価値があると認識している。しかし、アカデミックなプログラム予算は、学問という血管を通して流れるのだ。小さな、大学院（大学の学部レベルに反して）プログラム、しかも歴史の浅い相互学習的科目は、非常に脆弱であり、特に新しい企業モデル的大学運営においては、今まさに危機に瀕している。

特に、一般的な制度においては、高等教育のための一般財源からの税金のサポートが低下し続けている。全米レベルで、単科大学や、総合大学の運営者は、カリキュラムや学位プログラムを提供することにおいて、学習効果や、履修内容が重複しないことに殊のほか心を砕く。

もし、運営者が、間違っ、老人学的知識は、伝統的にある厚生サービスや社会学の中で十分適切に教えられうると信じているなら、老人学だけを扱うプログラムを提供するメリットはほとんどないと感じることであろう。

悲しいことに、アメリカ合衆国やヨーロッパにおける多くの老人学プログラムは、ここ数年来存続をかけた戦いが続いている。たとえば、サンフランシスコ州立大学（SFSU）や、サンディエゴ州立大学（SDSU）においては、大学側が、もう老人学コースを存続しないと決める動きが出てきた。何年間も、老人学の学部や学者たちは、学位プログラムを存続させるために必死にたたかってきた。SFSUにしてもSDSUにしても、カリフォルニア州においては、その当時老人学プログラムの規模が大きかった大学なのだ。

SFSUの老人学プログラム、ここは私が多くの年月をかけて学部運営していたところだが、数年前のカリフォルニアの予算危機の波の中で、継続を打ち切られたとき、90名の大学院生と学部生が老人学コースを履修し

ており、3名の正規職員と、永年教授が教鞭をとっていた。二つの大学のプログラムは、いまだに以前のように戻る挑戦をし続けている。現在のような州予算の圧縮の中で、そのようなプログラムの行く末を誰が予想できよう？

アカデミックな老人学のプログラムの数を減らしたり、制限するということはつまり、駆け足の、また断片的な高齢者学のコース履修となり、しかも関連履修課目を通じてしか教えられないことにつながる。これは、老人学本体の持つ知識や内容そのものが、目まぐるしくすごい速さで高齢化している人口に適応したり、将来の老人学者たちを教える人々へと浸透、波及していくことを阻んでしまう。

## 市場の現実

学生は、何の証書も免許も得られないような分野の学習をまず選ばない。もっと老人学を総合的に学習した大学院生は、専門家の市場においては、厚生学や健康学を学んで、証書を獲得したり、資格を取った学生と競合する時に、実際非常に苦勞する。こうしたことは、この今——増大する高齢者人口に対して、サービスを提供するために、教育を受けた職業人が最も求められている「現在」に起きているのだ。プログラムの単位認定や、卒業生に資格の証明なしに、一般の人々は、職業技能レベルを評価する手立てをもたない。高齢者にケアサービスをするための職場に雇われた人々のスキルはわからないのだ。事実、サービスの質をコントロールするために資格を与えることは、老人学の分野に人を引き込むきっかけになり、履修者は訓練された老人学者として評価されることになる。現在のところ、雇用者や、家族や、社会が、公的資金の入ったプログラムにおいて、サービスを提供したり運営している人の中では行いたい誰が、実際に老人学の教育を受けているのかを確認するシステムやメカニズムはないのだ。

私は、老人学が、教科科目として、知識体系、研究計画、学位授与カリキュラム、幅広い専門性、学問的ジャーナル、職業リスト、

学術組織としての本質的体系を持っているからこそ、必然として存在する権利を獲得してきたと信じる。しかし、制度的、そして学術的資格がなければ、プログラムは、最も優秀な学生を惹きつけることができないし、慢性的な人材不足から、老人学そのものが衰弱せざるをえないだろう。

アカデミックな老人学は、単位認定の範囲を作ることで、豊かな多様性のある教育に適応することができる。しかも、一定の条件のもとで、「おばあちゃん」のクラスを含めることもできる。たとえば、老人学の永年教授が一人いれば、中高年向けの小さなプログラムを実施することができる。基準やガイドラインは多くのレベルで築かれていくだろうし、より普遍的な「お勧め」から、より存在する「原理」へと長年の間に教育も変わっていくだろう。

私は、大きな財団が、国家的な、多年にわたる努力に資金提供するチャンスがあれば、アカデミックの老人学の単位認定プロジェクトプランに助成してくれることも決して夢物語ではないと感じる。高齢者施設は、修士レベルのプログラムから始め、人材教育プログラムを充実させられる。支援的で創造的であれば、州機関の長を務めた経歴の人などを招へいして、単位認定研修プロセスのプログラムを審査して準備することもできよう。

### NAPG

全米老人学専門家協会（NAPG）は、老人学的知識の本質的体系を認識し、高齢の成人のための質の高いサービスとプログラム作成を提供するための非営利の組織であり、老人学者の国家資格のないことを補い、証明するための組織として、専門家集団により近年設立されました。NAPG委員会は、最も総合的で実際に即しているとした資格認定のモデルを選び、承認されうる、5段階の、有識者による選定による資格認定のプロセスを3年がかりで作成しました。このシステムでは、学生による特別会員制度もあり、継続教育機会と、老人学者の倫理規律、また、プロフェッショナルネットワークも整備されています。このような積み重ねがあつてこそ、老人学や

老人学者は関連性を持ち、活力あるものとして機能し続けることができると私は信じます。NAPG について、より詳しくは、[www.napgerontologists.org](http://www.napgerontologists.org) をご覧ください。

筆者： Anabel Pelham, Ph.D.

President,

National Association for Professional

Gelontologist

全米専門老人学者協会 会長